

平成29年シラス漁の経過について

図1に県内主要5港（大津，久慈，大洗，鹿島およびはさき）におけるシラス漁獲量を，図2に1日1隻あたりのシラス漁獲量の推移を示しました。昨年のシラス漁獲量は，春季（2～7月合計）は2,697トで好漁水準，秋季（8～12月合計）は695ト（速報値）で不漁水準となりましたが，年間合計漁獲量（3,391ト）は過去5年平均（2,215ト）を大きく上回りました。

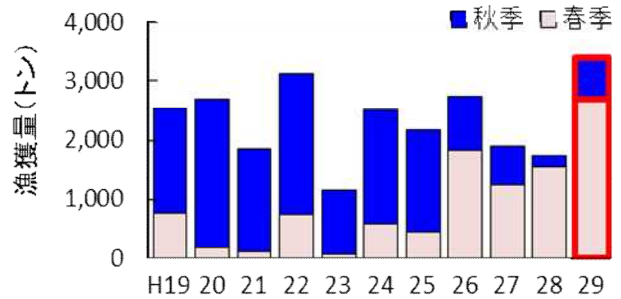


図1：漁期別シラス漁獲量の推移

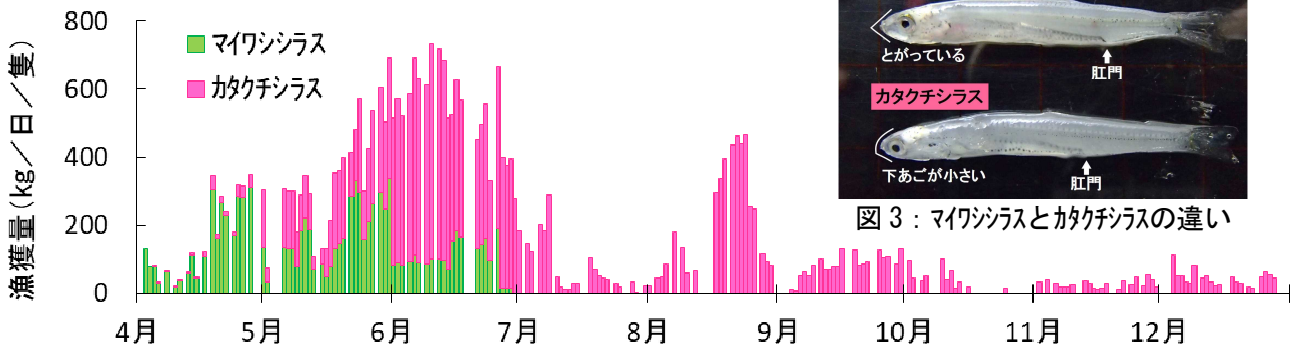


図2：1日1隻あたりのシラス漁獲量の推移

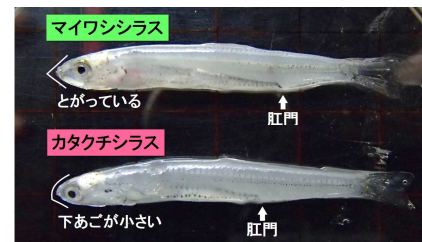


図3：マイワシシラスとカタクチシラスの違い

【春シラス：県内各地で好漁続く】

春季は，例年よりやや早めの4月中旬にシラス漁が本格化し，5～6月は県内各地で漁場が形成され，連日好漁となりました。本県沿岸域の海況は，黒潮の離接岸に伴う暖水波及の影響により，4月中旬以降高めの水温環境で推移し，シラスが本県沿岸域に來遊しやすい環境であったと考えられます。また，近年のマイワシ資源の増加により，特にマイワシシラス（図3）が多く漁獲され，4～5月はマイワシシラス主体の水揚げとなりました（図2）。

【秋シラス：低調に推移】

一方，秋季の漁況は，8月中～下旬に暖水波及の影響により一時的に好漁となったものの，期間中は全体的に低調に推移しました（図2）。この要因としては，房総～三陸海域のカタクチイワシ資源量及び茨城沖のカタクチイワシ卵稚仔の分布量が低水準であったことや黒潮からの暖水波及が弱かったことが考えられます。

※なお，今年の船曳漁況予測は，2月の沿岸資源等談話会にて発表します。（回遊性資源部 柴口 怜佳）

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は，当場の業務の推進に関し，一方ならぬご協力を頂き，厚くお礼申し上げますとともに，あさなぎの座礁事故につきまして，大変ご心配をおかけしました。おわび申し上げます。

昨年の反省を踏まえ，今年も職員一丸となり，「高品質な水産物を供給する力強い茨城水産業の確立」の実現に資する試験研究を推進するとともに，成果の発信に努めてまいりますので，引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年1月吉日

茨城県水産試験場長 八角直道
職員一同

【次号予告】H30.1.16の「水産の窓」は，「1月の海況と今後の見通し」を予定しています。